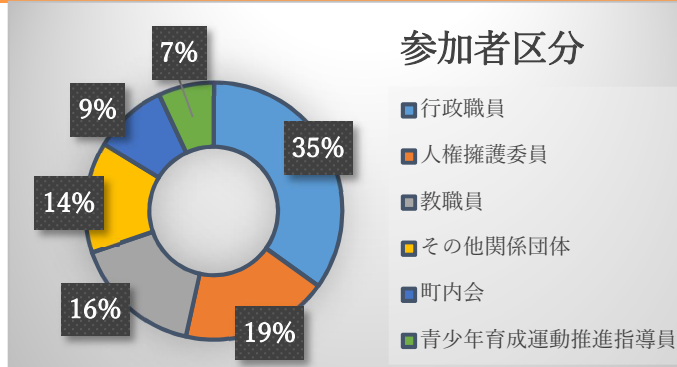


## 誰一人取り残さない地域社会の創造～外国人と人権、互いを認め共に生きる

### 事業の内容

- 1 事業名 令和6年度（2024年度）法務省人権啓発活動地方委託事業「人権教育指導者研修会【渡島会場】」
- 2 日時 令和6年11月22日（金）13：30～16：15
- 3 場所 渡島総合振興局（web会議システム Zoom）
- 4 人数 会場19名、オンライン26名



## I プログラム

13:30 13:40 13:50 15:30 15:40 16:10 16:15

開 会 式	オリエン テーション (10分)	事例発表・講義 「多文化共生を考える」 (100分)	休憩 (10分)	意見交流 (30分)	閉 会 式
-------------	------------------------	----------------------------------	-------------	---------------	-------------

### 【事例発表①】

「就労の視点から見た函館モデル」

#### 【講師】

有限会社河村工業 代表取締役 河村 悦郎 氏

### 【内容】

はじめに、なぜ外国人の人権について考えるようになったかを中小起業家同友会の活動と合せて、ご説明いただきました。

また、「人と人」としての対話を重視した外国人に向けたキャリア形成支援の取り組みについてご紹介いただきました。



### 【事例発表②】

「外国ルーツ青少年が地域を変える」

#### 【講師】

一般社団法人北海道国際交流センター  
専務理事・事務局長 池田 誠 氏

### 【内容】

一般財団法人北海道国際交流センターについて、設立から現在の活動を中心にお話いただきました。また、「多様性」が北海道のキーワードであるとして、北海道各地の外国をルーツとする方々との取り組みをご説明いただきました。



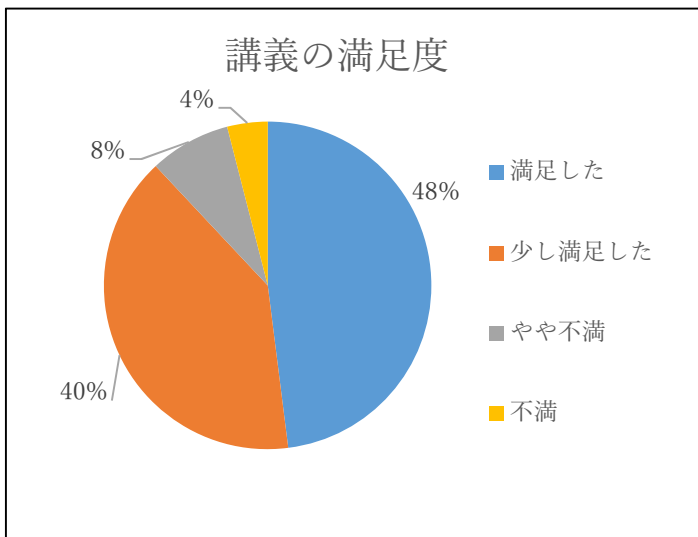
<p><b>【講義】</b> 「日本における人権問題」</p> <hr/> <p><b>【講師】</b> 北海道教育大学函館校 准教授 河 錬洙 氏</p>	<p><b>【内容】</b> 国際人権の歩みとして、戦前から戦後、そして、現代における人権に関する問題について国際人権規約に関連づけお話いただきました。</p> <p>また、日本における少数民族問題、ヘイトスピーチの問題、外国人の参政権を例に外国人の人権についてお話いただきました。</p>
--	---



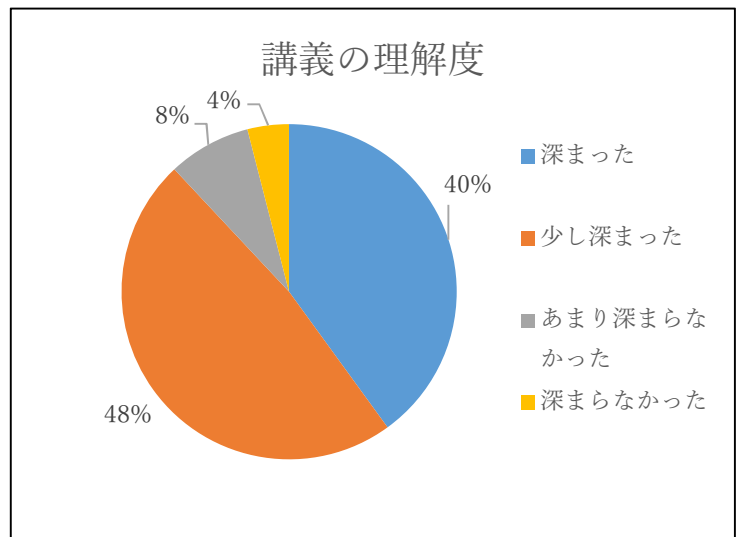
<p><b>【意見交流】</b></p> <p><b>【司会・進行】</b> 生涯学習推進センター</p> <p><b>【トークテーマ】</b></p> <p>① 様々な国籍の人が地域で共に暮らすとき、困ることは、どのようなことがあると思いますか。</p> <p>② 皆さんが思う「多文化共生」とは・・・？</p> <p>③ 外国人と一緒に仕事をする場合、どのようなことに気を付けたいですか。</p>	<p><b>【内容】</b> 参加者は4グループ（5人1組）に分かれて、自己紹介と「事例発表・講義」の感想を交流しました。</p> <p>その後、3つのトークテーマに沿って、意見交流を行い、外国人の人権について理解を深めました。</p>
--	--

## II アンケート結果

### 1 満足度



### 2 理解度



### Ⅲ 参加者からの声

#### ○ 7. 今回の研修会に参加して一番大切だと感じたことは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・多様な人に幼児期からふれあうことが大切だと思った。
- ・理性的に考えること。
- ・善意に再現性はない、との言葉が印象的でした。必要なことはきちんと制度化、ルール化すべきだし、周知しなければならぬと感じました。
- ・「善意に再現性はない」という言葉が響きました。つい感情論に引っ張られがちなのがあると思う。そもそも構造化が大切であると気づきをいただいた。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・お互いを理解し尊重し合う心。
- ・多様性の社会とひと言にいても、自分の気づかないところもあり、【知る】ことの大切さを改めて学びました。ありがとうございました。
- ・善意では継続性はなく、自由と平等は対立するものであり、ジグソーパズルの世の中がすべてのピースがハマった時にシンの世の中になる。
- ・人権問題について関心をもち、理解を深めること。
- ・自分の地域で、どのような取り組みが行われているのかを知り、自分には何ができるのかを知り、周りに伝えていく事。一人でも多くの方が、函館の地域モデルを支える担い手になる事が大切だと思いました。
- ・善意は持続しないこと、システムとして作り上げることが重要だということです。
- ・善意の意識向上にすべてを委ねるのではなく、社会のシステムとしてサポート体制を組み込むことは行政としても動いていくべきことだと感じます。
- ・「外国人といえばこう」という先入観を持って接しないこと、本人の意思や希望を聞き取り尊重すること。
- ・偏見をなくする大切さと自分中心に考えるのではなく人を思いやる大切さを感じました。
- ・「外国人と人権」について、特に技能実習生が多くいる地域の学校から要望されている。「多文化共生社会」を地域で実現させるために、ひとりひとりが考えてできることを考える内容にしたいと思う。相互に理解しあうためのコミュニケーションが大切だと思う。そういう場の施設も地域において大切だろう。
- ・もし自分が日本以外で外国人となった時の立場で考えさせられました。
- ・それぞれの国の特性を理解し、受け入れる事。お互いに努力する姿勢を持つ事。
- ・外国人とのつながりがなく、イメージがわきにくい。
- ・「平和」も「環境」も「幸せ」も、根っこは「人権を守り合う」ことだと感じました。今後もこのような企画に是非参加したいと思いました。
- ・「HumanRights」の概念を広角的に俯瞰的に考えようという気になった。考えると大きすぎておいつけないとも思うが一步一步。

○ 8. その他、感想やお気付きの点があればお聞かせください。

- ・運営ありがとうございました。三者三様でしたが、とてもタメになり考えさせられる内容でした。参加してよかったです。
- ・恥ずかしながらテーマについて知識のない中で参加させていただきました。函館で中小企業と大学が連携して外国人受入に向けた取組が積極的に行われていることを知り、素晴らしいなと思いました。
- ・興味深い内容で、とても勉強になりました。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・函館市では大学や他教育機関と連携しているとの事例を紹介していただきましたが、義務教育学校しか持たない町ではまた違うアプローチを考える必要があると思いましたので、高等教育施設を持たない小さい町の事例ももしあれば知りたいと思いました。
- ・事例発表を聞いても、「……で、これから私たちが実際の現場でどのような配慮をもとに動くといいのか？」に直結させられず、消化不良感が残りました。
- ・いろんな視点からのお話が聞けたことはとても良かったです。
- ・とても和やかに初対面の方々と交流できて有意義でした。ありがとうございました。
- ・河さんのお話はとても興味深く聞くことができました。ありがとうございました。